

重点施策	博物館活動の充実	評価実施者	所 属	美術自然史館
			職・氏名	館長 小山 淳

重点施策の概要	目 的	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキカワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。
	今年度の主要事業	①特別展の開催「英遠と万寿三 創作のひみつ」「あべ弘士～動物のいのちかがやく森～」「滝川は昔、海だった～化石ワールドで遊ぼう～」「搜索！ミュージアムコレクション」(事業費 3,203千円) ②普及事業や教育普及活動の実施「デッサン会」「土曜リカ広場」「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」「出前講座」など(事業費 586千円) ③美術自然史館の2階常設展示室(3室)を市民ギャラリーとして開放するための改装を実施 ④科学教育関係者・関係機関等と連携を図り「滝川わくわく科学フェスティバル」を開催

事業の目標と実績	項目	単位	H25	H26	H27	特記事項
			目標	実績	目標	
1	入館者数	人	35,291	35,291	35,291	H27 美術19,004 科学館14,198 郷土1,162
			32,619	32,842	34,364	H26 美術19,292 科学館12,306 郷土1,244
2	(企画展の入場者数) *入館者数の内数	人	10,300	10,300	10,300	H27化石2,017 あべ2,348 岩橋3,437 搜索884
			12,659	8,527	8,686	H26ダン2,741 多摩1,626岩橋3,033 藤倉1,127
3	(市内小中学生の入場者数) *入館者数の内数	人	3,000	3,000	3,000	学校の授業の一環として入場した数
			2,058	1,148	1,617	・H26 延べ14校 ・H27 延べ33校
4	(普及事業の参加者数) *入館者数の内数	人	2,074	2,074	2,074	H27デッサン会142人 月イチリカ364人 わくわく96人
			2,665	3,093	2,792	H26デッサン会160人 月イチリカ378人 わくわく99人
5	年間パスポートの発行数	枚	1,000	1,000	1,000	H27一般499 高校生1 中学生2 小学生197
			746	743	699	H26一般497 高校生1 中学生6 小学生239
6	年パス購入者の再来館回数	人	1,500	1,500	1,500	平均再来館回数 H26～2.85回 H27～ 2.80回
			1,882	2,123	1,960	*購入日も来館回数にカウント
7	(学校団体受入生徒数) *入館者数の内数	人	5,000	5,000	5,000	幼稚園/保育所・小中高生の団体受入数
			4,550	3,330	4,099	H26～79団体 H27～99団体

事業の分析効果の検証	<p>・3館合計の入館者数については、前年比1,522人増であった。年間パスポートの発行数及び年間パスポート持参のリピーター数は減ったものの、増となった要因としては、札幌青少年科学館による移動式プラネタリウムを上映した「滝川わくわく科学フェスティバル」(来場者704人)及び平成26年度から引き続き2回目の開催となった「春休み こども広場」(来場者1,723人)の実施によるものと考えられる。</p> <p>・2階の常設展示室(3室)に新たにビクチャーレールを敷設。貸しギャラリーとして市民のみなさんが気軽に個展やグループ展を催すことができ、館としてもコンパクトな企画展の開催が可能となる展示室に改装し、新たな賑わいの場を目指した。</p> <p>・科学実験教室や科学イベントを通して科学教育活動を実践するNPO法人「butukura」の主催により、新たに「滝川わくわく科学フェスティバル」を開催。当日は札幌青少年科学館等の協力も得て、滝川高校化学部ほか10ブースを超える団体が参加。市内の子どもたちに、普段接する機会が少ない各種科学の実験・工作等に触れる機会を提供することができた。</p>
------------	--

課題	<p>●学校との連携を継続し、地域の教育施設としての安定した活用について学校に働きかける</p> <p>●貸しギャラリーの利用増加に向けたPR方法</p>
----	---

評価	<p>【評価の視点1 期待どおりの効果があったか】 美術自然史館においては、著名な絵本作家のあべ弘士氏を招いた企画展を実施し、こども科学館でも新たな事業を開催するなど、館の特徴を生かした個々の取組みが全体的な入館者増につながった。</p> <p>【評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか】 今後来館者に満足してもらえる企画展や普及事業を実施し、入館者の増に結びつける。あわせて博物館の使命である収集・保存・調査研究に取り組む。</p>
----	---

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
- B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
- C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
- D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	<p>①日本画家・岩橋英遠の芸術及び北海道の天然記念物であるタキカワカイギウの企画展等を展開しながら、それぞれの魅力を発信していく。</p> <p>②こども科学館においては、「月イチリカ室」、「土曜リカひろば」など身近な素材を用いた科学の実験・工作を通じて子どもたちの科学に対する関心や興味を広げる事業を継続する。</p> <p>■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピートアップ ■ 検証 ■ 継続</p>
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	特になし
---------------	------